

## (環境省) 全体ヒアリング概要

日時：平成21年9月8日(火)

場所：合同庁舎4号館4階第2特別会議室

聴取者：有識者議員 相澤議員、本席議員、奥村議員、白石議員、青木議員  
内閣府 藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官、  
須藤参事官、更田企画官

説明者：環境省 三好 大臣官房審議官

### 【奥村議員】

規制基準設定等に関する従来型の研究費用と経済活動につながる研究費用の比率はどのようなものか。

### 【環境省】

比率は即答できないが、内容としては、知見を集めてメカニズムを解明することや、国際的な協力といった分野にシフトしてきている。

### 【本席議員】

子供の環境物質に関する大規模コホート調査は重要。厚生労働省とも連携して進めていって欲しい。このようなコホート調査は、アウトカムの公表が重要であり、多くの研究者がその結果を活用できる仕組み作りが必要。国民の共有財産になる仕組みを検討して欲しい。

### 【環境省】

現在、基本設計の途中であり、今後、長期にわたりデータを蓄積していくことになるが、その取り扱いについて、ご指摘も踏まえ、検討を進めていきたい。

### 【相澤議員】

従来型の規制に係る研究開発から、温暖化への対応等に関する研究開発へのシフトは無理なく進んでいるのか。

### 【環境省】

環境省は公害行政からスタート。産業型公害から、自動車公害、地球規模の温暖化まで広がってきている。現在は、必ずしも因果関係がはっきりしないが対策の必要な問題も増えてきており、そのメカニズム解明と平行して、どう対応するのか検討していく必要がある。従来の典型7公害も終わった訳ではなく、まだ取り組みが必要であり、国立環境研究所においてそういった基盤的な研究を行っている。

【相澤議員】

地球環境問題など他省庁の施策と重なる部分もだいぶ出てきていると思うが、予算要求上どんな整理をしているのか

【環境省】

例として、温暖化技術を挙げると、政府を挙げての取組であり、内閣を舞台に政策調整がなされている。各省が特徴を活かしながら役割分担を行っている。

【奥村議員】

メカニズムの解明にはサイエンスが重要。論文ベースでは我が国の国際的プレゼンスは低いですが、競争的資金等でサイエンスもカバーするつもりはあるのか。

【環境省】

これまで、当省と文部科学省の競争的資金の違いをよく指摘されている。当省の競争的資金では、基礎的な研究に関係するものもあるが、基本的には政策に近いところを手がけている。

以上